

## 農業クラブ



10月22日から沖縄県で開催された農業クラブ全国大会に参加しました。畜産部門で松本悠里さん（動3）、農業土木部門で高橋慎也さん（環3）が入賞を果たしました。来年はより多くの入賞者が出るように頑張ります。

## 共進会



島根県種畜共進会乳用種牛の部門第三区で最優秀賞を獲得しました。生徒の日々の細やかな管理の結果、素晴らしい賞をいただきました。

## 農への思い



夏休みの課題である農への思い作文の中から毎日農業記録賞高校生部門で動2の荊尾さんの作品「いのちの授業」が優秀賞を受賞しました。（写真提供：毎日新聞）

## カレー選手権



（食品2年 大野さん・月守さん）

出雲市産の甘夏を使用して製造したジャムを使った食品科学科の作品「モーリンオリジナルマーマレードの豚角煮カレー」がグランプリを獲得しました。今後レトルト商品化されます。

## お米甲子園



（植物3年井上さん 青森県にて）

第5回全国農業高校お米甲子園で植物科学科3年が出品した「きぬむすめ」が特別優秀賞を受賞しました。その秘訣とはドジョウを放流して無農薬栽培をしたからなのです！！

**2年連続  
入賞**

## 田んぼアート



植物科学科3年生作物専攻生の研究の一環として案山子をデザインしました。5品種の米を手植えしているんですよ。

『いのち』を学ぶ

校長 山藤美之

農業祭の講演会は昨年の「地球のステージ1」の続編、「地球のステージ2」でした。講師の桑山紀彦さんは世界の紛争地や被災地で数々の医療活動をしてきた人。さらに東日本大震災では肉親を津波で失ったご遺族の方たちの心のケアに携わっている人。だから、命の大切さが身に染みてわかっている人です。そんな桑山さんが自身のブログで出雲農林のことを書かれていますので引用して紹介します。

『今日は二年目の出雲農林高校のステージでした。

農業高校は常に命（いのち）について学んでいます。出農の動物科では卵を孵化してヒヨコを育てはじめ、ニワトリにまで育てて、自分でしめてお肉にして食べます。そうすることで、いつも気軽に言っている「いただきます」が、「命をいただきます」であることに改めて気づき、いのちの意味をちゃんと考えるようになっていきます。出農を卒業して、「地球のステージ出雲」実行委員会のメンバーになっている金築さんが言いました。

「それまではご飯を食べる時に、つくってくれたお母さんに向けて「いただきます」って言っていたけど、あの授業を受けてからはその向こうにある「いのち」に対して「いただきます」と言えるようになりました。」

うん、すばらしい教育をしている出雲農林高校！

実際にステージに聴き方もすばらしく、その素直さとまっすぐさに感動しました。シーンとなるその空気の澄み方がすばらしいものでした。』

## ～農業祭を振り返って～



今年の農業祭は、「出農から作り出す人と農との縁結び」というテーマのもと行われました。一日目は講師の桑山さんをお呼びして去年に引き続き、地球のステージの講演を聴き、生徒全員が命の大切さを知ることができました。二日目は即売、一般公開を行いました。朝から晴天に恵まれて多くのお客さんに来ていただき、とても良い農業祭になりました。生徒全員が真剣に取り組むことができ良かったです。

（農業クラブ会長 田尾 海星）

初日の桑山さんによる講演では世界各国の紛争地や被災地の状況を歌も交えて細かく説明してもらい、世界について深く考える機会になりました。二日目は天候に恵まれ、多くの方々にきていただきました。農業祭は地域の方々と触れ合える良い場となっています。その中では、お客様に対する礼儀、日々の学習の成果をしっかりと出し切ることができました。来年も後輩の活躍に期待したいです。

（生徒会長 奥井 匠）